

インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No.20

インド・釈尊あれこれ紀行



マンモディーの岩窟寺院の入り口

ジュナール岩窟寺院

インド渡航歴40回超!

佐藤良純のインド・釈尊あれこれ紀行 No.20



ブネーの街から見上げるマンモディーの岩窟寺院

インド中央部に広がるデカン高原(サンスクリット語で「右」即ち「南」を意味する)は、一枚の巨大な岩で出来ておりテンプルマウンテンと呼ばれ、のし餅を重ねたような構造になっている。

デカン高原の西端はアラビア海に沿って南北に延びる西ガーツ(山脈)だが、そこから延びる高原の所々の岩盤の弱いところが浸食され、深い谷の通り道となり東に伸びている。なかでも特に谷が深く有名なのがナーネーガートだ。この谷道でアラビア海から塩を始めとする多くの海産物が運ばれた。

この道が貿易路として整備され盛んに使われたのはサータバーハナ朝で、その起源は紀元前3世紀で、同時代に栄えたマウリヤ王朝(紀元前3世紀)やグプタ王朝(5世紀)と同じほどの広さを支配していた。

また、16世紀には、ポルトガル人の旅行者に続いて、イギリス東インド会社の人々もこ



アラブ海の沿った西ガーツ山脈から東に広がるデカン高原。
侵食され、切り立った崖に岩窟が続く

の道を訪ねている。

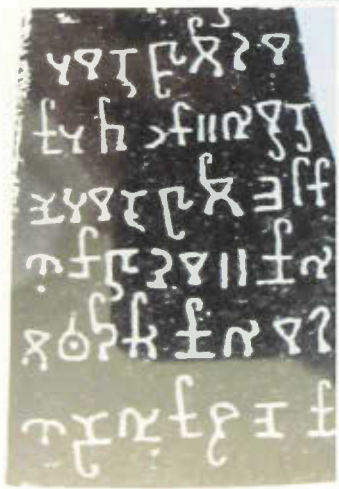
そして、この道に沿って多くの岩窟寺院が建てられている。侵食された高低差のある崖に掘られ、有名な石窟群も数多い。ナーネーガートが東のアジャンター岩窟に至る道につながっていることからわかる。

ジュナールはこの道沿いの町で、マハラシュトラ州のブネー地区にある。ジュナールは古い町を意味する。ジュナールには180の岩窟寺院があり、マンモデー、シバネリ、ツラジャ、ガネーシャが有名である。マンモデーを訪れたのはかなり昔で記憶が定かでないところもあるが、岩窟内に大きな特徴はなかったことは覚えている。一方、この地の碑文にサーターバーハナ朝の創始者をふくめて7人の王、王妃の名前が記されていたのがとても印象的で、明確に記憶している。

ジュナールの岩窟寺院の入り口には寄進者夫妻の巨大な像が建てられている。また、寄



深い谷の道で有名なナーネーガート。道というには狭く急勾配すぎる？



岩窟寺院を作る資金の寄進者の名前が彫られている。お金以外に穀物、衣類、薬など僧侶に必要な物も寄付されている

進者の名前が記された石碑も数多く残っている。そこに記された名前が多くが、現代インドの人々の姓と同じなのも興味深い。

彼らが寄進したのは、建設資金の他に穀物や衣類、そして薬など、僧侶の生活に欠かせない物全般である。

また、プネーは避暑地として有名であり、多くの大学があることで日本からの留学生も多い。それには、西インドの大都市ムンバイとジュナールのあるプネーがデカン特急で結ばれて便利な立地であることも一因だろう。蛇足だが、その途中のロナウラには、*オシヨウ* の名で知られるヨーガ道場がある。

佐藤良純 大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学部長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有次回。著書に「ブッダガヤ大菩提寺」、「釈尊の生涯」など多数。